

## 大阪大学ASEANキャンパスと

# Osaka University International Certificate Program について



海外交流

住村 欣範\*

An introduction of Osaka University ASEAN Campus  
and Osaka University International Certificate Program

Key Words : ASEAN, overseas campus, international exchange,  
hybrid international educational programs

### はじめに

大阪大学 ASEAN キャンパス構想は、「知の協奏と共創」を日本と ASEAN 地域で実装する高度グローバル人材の育成拠点の形成を目的として 2017 年に始動しました。すでに、基本的な基盤の整備を終えて本格的な稼働に入っており、2021 年度からは、拡大と深化のための新たなフェーズに移行しつつあります。本稿では、その活動の概略を Osaka University International Certificate Program を中心にご説明します。



マヒドン大学におけるジョイント・キャンパス調印式

### 1. 大阪大学 ASEAN キャンパス設置の背景

大阪大学と東南アジア地域との交流の歴史は古く、生物工学分野や人文社会科学分野においては、1970 年代から活発な交流が始まっていました。「大阪大学 ASEAN キャンパス」には、東南アジア諸国連合 (ASEAN) という組織の名称が取り込まれていますが、ASEAN は 1967 年に発足した政府間組織です。発足時のメンバーは、東南アジア地域にある国の数の半分にも満たない 5 か国に過ぎませんでした。その後、ASEAN は 10 か国に拡大し、2021 年現在では、東チモールを除く東南アジア地域のほとんどの国が参加する組織になっています。

大阪大学と東南アジア地域との交流も、ほぼ ASEAN の拡大の歴史と軌を一にしてきたと

もいいでしょう。2000 年代の初頭には、大阪大学の ASEAN 諸国の大学との交流は、少なくとも数の上では日本の大学のトップを走っていたと思います。

「多様性の中の統一」を掲げる ASEAN は、その統合性を強め、域内交流が活発になり、急速に発展して力をつけてきており、日本との関係も徐々に変化しつつあります。ASEAN 諸国の間には、まだ、大きな経済格差がありますが、COVID-19 のパンデミックまでは、ほとんどの国が堅調な経済発展を続けてきました。大阪大学 ASEAN キャンパスが、当初からその活



大阪大学 ASEAN キャンパスのカウンターパート。上から、VAST (Vietnam)、ITB (Indonesia)、UBD (Brunei)、MU (Thailand)。ブルネイでは、UBD のほかに、UTB と UNISSA もカウンターパート。



\* Yoshinori SUMIMURA

1967年7月生まれ  
大阪大学大学院人間科学研究科博士後期  
課程単位修得退学 (2000年)  
現在、大阪大学グローバルイニシアティブ  
機構 准教授  
修士 (人間科学)、修士 (学術)  
専門 / 人類学  
TEL : 06-6879-4441  
E-mail : sumimura@cgin.osaka-u.ac.jp

動理念としてきた「質の高い成長」への貢献は、経済発展の裏で生じる負の側面（環境問題や生態系への影響など）や、今回のパンデミックや自然災害に典型的にみられるダウンサイドへの対応を意識したものでした。この「質の高い成長」に対して、ASEAN 諸国と日本の未来を担う先導的高度グローバル人材の育成を通して貢献しようというのが、ASEAN キャンパスの基本的な目的です。

## 2. ハイブリッド型教育プログラム

大阪大学 ASEAN キャンパスの第一の特徴は、ASEAN 諸国のカウンターパートとなる大学などの機関と、対等な立場での協定や覚書に基づき、カウンターパートの中に大阪大学の教育を実施することのできるジョイント・キャンパスを設置したということにあります。これによって、海外分校に類するような教育活動を行うことが可能となりました。

また、共同研究を推進するためのジョイント・ラボも整備されつつあります。日常的にオンラインによる教育や研究交流を進めるためのインフラも整備されてきました。これまでは、別々に交流を行ってきたラボ（研究室）が、インフラとプログラムを共有し、さらに、ロジ面での支援を受けて以前よりも容易に活動することが可能となり、部局を超えた横の交流も進んでいます。

2021年4月現在、大阪大学 ASEAN キャンパスは、タイ、ベトナム、インドネシア、ブルネイの4つの国にジョイント・キャンパスを設置し、実地教育とオンライン教育を組み合わせたハイブリッド型のダブル・ディグリー・プログラム（DDP）と双方向の海外留学を含むサーティフィケート・プログラム（Osaka University International Certificate Program = OUICP）などを展開しています。DDPは、調整中のブルネイを除く3つの国で実施されており、オンライン教育を組み合わせた留学期間の短縮が実現しつつあります。

このうち後者の OUICP は、大学院生を対象とする大阪大学独自の双方向サーティフィケート・プログラムです。

ASEAN 地域からの留学生は、秋に大阪大学に入学し、概ね1年間の学籍を与えられ、この間に6単位から8単位を修得します。ASEAN 諸国からの留学生は、あらかじめプログラム担当部局や受け入

【2020年度 OUICP 一覧】	
Introduction to Computational Materials Design	GSE
Frontier Engineering Science: An Introduction through STEM-Centered Learning	GSES
Advanced Industrial Biotechnology	ICBiotech
Nanoscience and Nanotechnology as Manufacturing Core	INSD
Halal Science, Technology and Innovation	CGI

れ担当教員と調整のうえ、1年間に最大4回設けられている渡航時期から適切な時期を選んで、2、3か月大阪大学に留学し、ラボスタディ、フィールドスタディ、インターンシップから選択可能な海外実習科目である Practical Study Abroad (PSA) を受講します。

PSAの前と後にも、大阪大学の教員が ASEAN 諸国のジョイント・キャンパスに出向くか、オンラインで授業を行います。全ての授業は基本的に英語で行われます。大阪大学から ASEAN のカウンターパート大学などに派遣される学生も基本的な履修モデルは同じですが、留学の期間は短くてもよいことになっています。

受講科目は、プログラムの基盤的知識を提供する基礎科目や PSA のほかにも、学生自身の研究を SDGs と関連付けて考察する SDGs 科目が必須となっています。修了後は大阪大学総長から Certificate が授与されます。

第一期の OUICP は、5つの編成部局から5つのプログラムの提供を受け、当初予定より遅れて、2020年12月にスタートしました。第一期の OUICP は開始前からパンデミックの影響を受けつつありますが、もともとオンラインでの授業提供を想定していたことから、授業の実施形態については柔軟に対応し、プログラムを開始し、続けることができました。

プログラム実施期間の半分が過ぎた現在も、第一期の受講生約60名が受講を続けています。しかし、日本へ留学して行う PSA は、今年度は12月、4月、6月に来阪の期間を設定していましたが、パンデミ

ックの影響ですでに12月、4月の渡航機会は失われ、多くの学生が最後のチャンスである2021年6月に渡航を繰り返して、実施を待っています。残念ながら、この原稿を執筆中も大阪の状況は芳しくありません。この最後の機会にも受講生が来阪できない場合は、代替え措置として、オンラインでのPSAを試験的に実施し、留学生に受講してもらうこととなります。

今回のパンデミックに限らず、新興再興感染症のリスクは今後もますます大きくなり、当然のことながら大学の国際交流に大きな影響を及ぼすことでしょう。幸い多くの学生が、大阪大学に来る希望を捨てずにいます。安全第一で無理はできませんが、望みのある限り、柔軟に対応しながらプログラムのレジリエンスを高め、大阪大学ASEANキャンパスの危機管理能力の向上の機会としていきたいと思えます。

### 3. プロジェクトの成果と今後の展開

大阪大学ASEANキャンパスは、各国におけるジョイント・キャンパスの整備と、ハイブリッド型の共同学位プログラム及び双方向留学プログラムの整備と運営において、一定の成果を収めつつあります。ジョイント・キャンパスを設置したカウンターパート以外にも、ASEAN諸国における連携機関(交流協定と学生交流の覚書を結んだ大学など)において、大阪大学ASEANキャンパスの教育プログラムに参加する仕組みも整備され、留学生に関しては、年間100人程度を受け入れる体制が整備されました。

特筆すべきは、カウンターパートとの間のコミュニケーションが活発になり、問題を共有し、協力して課題解決を進める意識が定着したことです。パンデミックは、この稿を執筆している現在も大変大きな脅威であり続けていますが、この間、OUICPにおいては、多くの先生方のご尽力で、オンラインを利用した授業などが定着し、さらに、今後行われる実習科目などについても部分的にオンラインで可能となる見込みです。今後も、ハイブリッド型の教育プログラムの構築と危機対応能力の強化をカウンターパートとの協働のもとに意識的に行って、大阪大学ASEANキャンパスのレジリエンスを強化していきたいと思えます。

大阪大学ASEANキャンパスは、これまで述べ

てきたDDPやOUICP以外にも重要なミッションを持っています。キャンパスと教育プログラムの整備に続く、今後の重要な展開としては、以下の4つのことが挙げられます。

1つ目は、東南アジアの他の国と他のアジア地域への展開、および、ASEAN諸国間での連携の推進です。2021年度中に、4か国で構築したモデルをフィリピンやマレーシアなどに拡大することを目指しています。また、ASEANの国々の多様性をと、それぞれの国が持つ強みを生かした連携も構想されつつあります。

2つ目は、産・官・学協働基盤による高度グローバル人材育成です。OUICPなどの教育プログラムは、大阪大学の学生にとっても留学機会の拡大となります。産業分野での日本との連携が活発な東南アジア地域は、将来、産業界や行政でのキャリアを目指す学生にとっても、重要な海外経験と交流の場となるでしょう。2021年度には、2020年の春にパンデミックの影響により開催を中止せざるを得なかった、ブルネイでのハイブリッド型英語プログラムの復活なども企画されています。

また、国内の関連機関とも連携しつつ、社会人にも双方向の留学の機会を提供し、産学連携の基盤とするOUICPも構想しています。

3つ目は、共創ネットワークの形成です。大阪大学ASEANキャンパスを基盤とした共同研究の成果を「質の高い成長」のために、ASEAN地域において実装する仕組みを創ることです。実装においては、SDGsを強く意識し、ASEAN諸国間の連携、産・官・学連携、教育プログラムとの連携を、同時に並



大阪大学ASEANキャンパスの4つのミッション



行して進めて行きたいと考えています。

最後に、大阪大学内での参加部局の拡大です。これまで、理工系と日本語教育に関する部局に積極的にご参加いただき、立体的な教育プログラムの構築にご尽力いただきました。今後は、これを医歯薬系や文系部局に拡大し、総合大学としての大阪大学のキャパシティを十全に発揮していきたいと思えます。

### 終わりに

繰り返しになりますが、パンデミックの完全な終息は、残念ながらまだ先の様です。日本は、これまで半世紀の長きに渡って、経済や技術の先進国としてだけではなく課題先進国としても、様々な知見をASEAN諸国をはじめとする途上国に提供し、人材育成を行ってきました。しかし、ASEAN諸国の中には、シンガポールの例にみられるように、多くの指標において日本を凌駕する国も現れ、また、今回のパンデミックを機に、新興再興感染症に関する経験とその社会的対処という点では、ASEAN諸国の方が実質的な成果を出してきている部分もあります。

今後、ASEAN諸国と日本は友好的な関係を保ちつつも、少しずつ変化していくことが考えられます。今の若い世代が交流の主体となって、真の対等なパートナーシップの下に、双方にとって有益な協働関係を構築する時代が来ることを期待しています。

残念ながら、現在、人類はこれまでとは質の違う、いくつかの大きな課題に直面しています。そして、



プルネイの日系企業の水素プラントを訪問中の学生（2019年）

それは、特定の国や地域だけのものではなく、いずれも全人類が共有し、対処しなければならない課題です。

人口、健康、環境、生物多様性、エネルギー、経済発展、文化的多様性、2つの大国の間という地政学的な位置、そして、感染症。これらの視点から見て、ASEAN諸国は、アジアだけではなく、世界にとっても非常に重要な位置を占めています。大阪大学ASEANキャンパスは、これらの課題の解決のために、日本とASEAN諸国の研究者と学生、その他のステークホルダーの人々が知見を持ち寄り、鍛え、実装し、未来を目指す、かけがえのないキャンパスとなるはずで

ASEAN諸国との協働と課題解決、先導的なグローバル人材の育成に関心をお持ちの多くの皆様方のご理解とご支援を、よろしくお願い申し上げます。

